

おぶせくらし図鑑

寺島健太郎さん

子どもの頃から小布施町で野球に親しみ、現在は町のスポーツ少年団の監督を務める寺島健太郎さん。毎週土曜日に町営グラウンドで子どもたちの指導に励んでいます。そんな寺島さんが抱く少年野球への思いや、指導者としての心がけていること、そして、自身のご両親や子どもたちなど三世代が一緒に暮らす日々の家族との生活などをお聞きました。



「野球はいつからやっていますか。」

小学2年生からです。特にやりたいと希望したわけではなく、父親の勧めで町のリトルリーグに入団し、私が野球を始めたことで、父はリトルリーグの監督とリトルシニアのコーチを務めました。ちなみに私は三人兄弟の長男で、真ん中の弟はサッカーをやっていました。一番下の弟も野球でした。

小布施町の少年野球チームは、今はスポーツ少年団（スポ少）だけになってしまいましたが、当時はリトルリーグもあったんですね。スポ少はあまり大会などに出場しておらず、練習も少なかったのに対し、私が所属していたリトルリーグは大会があって、とにかく練習していました。覚えてるのは、小学6年生のときに、大晦日も元日も練習したこと。それに、何よりリトルリーグは小布施町少年硬式野球連盟という組織がしっかりしていたので、保護者会があったり、野球だけではなくいろいろなイベントがあったり、信越連盟の加盟で中南信や新潟県まで練習試合や大会に行ったりと、親も子どもも大変でした。

中学生になってからは、小布施中学に野球部がなかったため、リトルシニアに入団しました。小・中学校ともに運よくメンバーに恵まれ、私の2学年上



の先輩から私の世代まで強かったんです。全国大会にも出場しました。だから、野球をやれば勝てるという雰囲気があった。当時は、野球自体は楽しくなく、仕方なくやっていたところもありましたが、勝てるチームの輪の中に入っている気分は悪くなかったので頑張っていた感じですね。

「リトルシニア後も野球は続けていたのですか。」

須坂高校に進学して野球部に入り、キャプテンも務めました。

その後は地元を離れて短大に進学し、野球からも離れていきましたが、就職で地元に戻ってきてから、町の早起き野球と勤務先の軟式野球チームに加わりました。勤務先のチームは全日本

軟式野球連盟に加盟し、高松宮賜杯や国体を目指すような活発なところだったので、週末は勤務先で練習し、平日の朝は早起き野球で汗を流すという生活でした。

「そこからスポ少の指導者になった経緯は。」

結婚して3人の子どものにも恵まれ、土日に家にいないのはよくないと思いましたし、30歳を迎え、技術面も体力面もそろそろ野球を辞めてもいいかなと思っていました。勤務先の軟式野球チームは辞め、早起き野球だけにしたんです。そんなときに、スポ少の前監督の田中監督からコーチとして声をかけてもらいました。私の一学年上の役



場勤めの方で、小・中学校時代はずっと一緒に野球をやっていましたし、早起き野球でも一緒にしていたので、じゃあ、引き受けてみようかな。それから16年前、30歳のときです。それ以来、コーチを続けていましたが、昨年、田中監督が退任されたので、今年から私が監督をやっています。

「スポ少の指導者は、ほかにどんな人がいますか。」

今は7人がコーチ登録していて、全員30〜40代です。中学時代の後輩や、娘の同級生のお父さん、弟の野球部の後輩など、つながりがある人ばかりで、私が一番年上です。

監督になって今は数ヶ月経ちますが、やはりコーチとは違いますね。コーチ時代は子どもだけを見ていればよかったのですが、監督になると、大会や練習時に来られる車の手配などを考えたり。そういう細かい部分は今までやってきていなかったもので、大変だなと感じています。でも、子どもたちがのびのびと野球をやっているのが、指導は楽しいですね。

実は、スポ少の監督を引き受けたときに、私の親には報告していなかったのですが、噂を聞いた父から「やめて



おけ」と言われました。リトルリーグの監督が本当に大変だったんでしょうね。当時は保護者会も連盟も役員会もあったし、多くのお金も動いたし。でも、スポ少はリトルリーグとは違って、練習試合も近隣地区だけだし、もう決めたことだからと話しました。

「練習はいつ、どのようにやっていますか。」

今は20人の子どもが登録していて、年10回ほど出場する大会に向け、毎週土曜日に1日かけて練習しています。私が指導者になったばかりの頃は、まだ町内にリトルリーグがあり、町営グ

ラウンドはリトルリーグが主に使っていたので、スポ少は土曜の午前中に使うだけでした。でも、だんだんリトルリーグに入る子どもが減ってきて、結果的になくなってしまう、グラウンドが空いたので練習時間を延ばしました。子どもたちからもっと練習をしたという要望もありましたし、やはり大会になると、休憩しながらでも1日野球ができる体力や集中力がないと勝ち残っていけないんですね。だから、ほかのコーチからの声もあって、今は土曜に1日練習しています。特に今はやる気のある子がいるので、練習量を増やして試合で結果が出れば、選手も保護者も楽しめるかな。やはり一生懸命練習をしても、結果が伴わないと張り合いが出ませんからね。

「指導者として意識しているのは、どんなことですか。」

とにかく野球を続けてほしいということ。やはり、中学生になってから野球を始めるのはなかなかハードルが高く、よほど才能や能力がないと、楽しい思いができません。私自身も子どもの頃は仕方なく野球をやっていましたが、中学・高校でもそれなりに試合に出場し、良い思いもできたので、まずはキャッチボールができ



「子どもたちが野球を続けていくために心がけていることはありますか。」
 一番は、私も子どもも楽しく取り組むことですよね。そうしないと、イライラしてきてよくありませんから。ムキにならないように気を散らしながらやっています。

あとは、近隣市町村のチームは土日・祝日の練習が当たり前で、海や遊園地などに遊びに行く余裕すらないことが多いんです。でも、私は、小学生のうちは家族との時間も大切に、ちゃんと宿題や家の手伝いもしなければいけないと思っていますので、練習は週1回の土曜日だけにしています。

冬も、ほかのチームは土日・祝日変わらず練習していますが、うちは体育館での練習になるので、体育館が空いている日曜の午後3時間のみ。それでも以前は、冬は練習をしていなかったのですが、その頃に比べたら1年間運動ができる環境になりました。

「子どもたちの家族にも配慮しているのですね。」

ほかのチームは練習量だけでなく、保護者の協力も厳しく求めている、役割の当番制などもあったりするので、です。でも、うちは、子どもは楽しく、

居っていて、ほかの地域で暮らしたことがないので、生活や子育てのしやすさなどは、正直わからないです。ただ、長野市街地よりは近所付き合いや横のつながりがあるとは思いますが、一応、地区の義務として消防団は10年間活動しました。

「町全体のスポーツ振興はいかがでしょう。」

町内のマツシマススポーツさんが昔か



親には優しいチームを目指しているので、保護者会も役員決めもありません。親に負担をかけないことが、子どもが野球を続けるためにも一番のメリットだと思っています。大会の応援も、保護者に時間と場所を連絡し、希望者に自由に応援に来てもらうかたちで、車の送迎なども不要です。昔、我が家の長男がリトルシニアで野球をやっていたときは、やはり何かと親の負担があつて、ウグイス嬢(場内アナウンス)や審判員も保護者が担当していました。私は好きだからよかったんですが、興味がなかったり、性に合わなかったりする人が審判をやっているのは大変そうでした。審判講習会や試合前のミーティング、試合後の反省会も厳しい雰囲気だったので、うちのチームはそうした慣習をつくらないようにしています。大会の審判も、うちは基本的に野球をわかっている指導者がやってくれてすごく助かりますし、自分ですべてやっても楽しいですね。大会の成績はあまり宣伝できませんが(笑)、親の負担が少ないことが、うちのチームの一番の売りです。

今は野球人口自体が減っていて、周りのチームも子どもが少なくなっている、そのなかでもなんとか選手数を増やして存続していることが必死です。

出したいという思いが張り合いですね。人数が多い学年もあれば少ない学年もあり、途中で辞めちゃう子もいたり、5・6年生になってから始める子もいたりといういろいろなので、少しでも大会で良い成績を残して、野球に興味のある子に入ってもらいたい。先日、とある大会で優勝したので、早速、賞状を額装してチームの集合写真を入れ、小学校の昇降口に飾ってもらいました。子どもたちにとっても思い出に残るかなと思って、学校にやっつけています。

それに、指導者になったばかりの頃はリトルリーグ全盛期でスポ少の練習時間が短くて寂しかったので、土日に野球ができるリトルリーグをうらやましく思っていました。リトルリーグの練習を見に行ったこともありました。今は土曜日に思いっきり練習ができるようになって、望んでいた未来になったと感じています。大変な面もありますが、頑張ってもう少し小布施の野球文化を盛り上げていきたいですね。

「そのために町の人に伝えたいことはありますか。」

「Uターン者も含め、子どもに野球をやらせたい人がいたら、ぜひ仲間に加わってほしいです。保護者の負担は

「毎週土曜の練習と、寺島さんご自身のご家族との暮らしのバランスはどのように取っていますか。」

3人の子どもたちは大学や高校に進学してだいぶ大きくなりましたし、妻は土曜勤務の仕事なので、土曜はスポ少の練習日に当て、日曜は家族で買い物に出かけたり、庭の草取りをしたり、私の両親がブドウ農家なので作業を手伝ったりと、家の仕事や雑用をする日にしてバランスを取っています。

「町の暮らしやすさを感じる面はありますか。」

就職してからずっと実家住まいで、結婚後も二世帯住宅風にして三世代で同



少なく、専用グラウンドがあつていつでも自主練習ができますし、草刈りなどもきちんとやってきれいに保つようになっていますので。

「それでは、今後の目標や展望を教えてください。」

教え子のなかには、中学で全国大会に行った子はいませんが、まだ甲子園出場者はいないので、高校野球で活躍して、後輩たちの憧れや目標になるような選手が出てきてくれたらうれしいです。今の教え子たちはやる気がある子が多く、中学になったらどのチームに入るかなどを親と相談しているようですが、町のリトルシニアがなくなってしまう今は、町外のチームに行くしかないですね。そのために親の送迎も必要になるので、先輩たちの進路の情報も集めながら決めていくようですが、高校まで野球を続けてもらって、教え子の高校野球の応援に行くことを今はすごく楽しみにしています。

そして、子どもたちが野球を続けていく限り、次の指導者が育つまで、チームを存続させていきたいです。あと10年くらい指導者として頑張つて、次の世代にバトンタッチができればいいなと思っています。

「今のやりがいは何ですか。」
 やりがいというわけではありませんが、やはり選手を増やしてチームが存続していくように、なんとか結果を